



あのとときの常呂・写真館

VOL 194

(1996年)

平成8年7月20日 平成岐阜开拓団ゴールイン

▶明治30年(1897)、岩見沢村(現岩見沢市)の青木牧場で小作人として働いていた岐阜県人の林喜太松他4人が自作農地を求めて下常呂原野を視察し土地払い下げ入植許可を受け、現在の岐阜地区に仮小屋を建て、翌31年3月に岐阜県人21家族が現在の岐阜地区に入植します。●「平成岐阜开拓団」は、この先人たちの入植から100年を記念し、先人たちのたどった道1600kmをその子孫が「ビッグドリーム号」というトラク

ターで走破するというプロジェクト。●平成7年、常呂町の「ふるさと夢事業」の採択を受け、岐阜県を訪れ、県庁や大野町の協力依頼、協賛企業訪問、事前走行など準備を進め、平成8年7月9日から20日までの12日間にわたるトラクター走破を果たします。●この事業を記録した「夢と駆けぬけた12日間 風に乗って」(平成10年2月発行)の中で、走行隊長を務めた井川善勝氏は「ビッグドリーム」と題して「平成7年の2月頃、私たち4人が話していたトラクターで岐阜県から岐阜まで走ってみようという話と100年だから里帰りして花参りしようという話の一つになり、〈100年目の里帰り、岐阜から岐阜へ〉という、とてつもない大きなイベントとなって大成功に終わることができました。47名の団員全員がトラクターを走らせたいという気持ちが一つにまとまり、一生に一度しか味わうことができないような感動と充実感を知ることができたと思います」と綴り、7月9日の大野町スタートには1000人を超える人たちの声援、各地での交流やテレビ、ラジオ、新聞での報道、多くの声援を受けたことを綴っています。また、団長の山田武正さんの言葉「平成岐阜开拓団は、心の开拓」を引用して次の世代にもつなげていきたいとまとめています。



●「広報ところ」10月号では6ページにわたり、12日間のようなすを詳しく伝えていますが、ここでは7月20日、午後5時に岐阜集落センターにゴールインしたようすを写真で紹介します。



ゴール間近のビッグドリーム号



岐阜県大野町から180人の
お客さんが来町。
岐阜区開基100年記念の前夜祭
・記念式典を一緒にお祝い。



夢と駆けぬけた12日間 風に乗って」から抜粋

17:00 ビッグドリーム号1600km走破。夢をのせて走った12日間、無事感動のゴール。岐阜区集落センター広場到着。

17:30 到着式・歓迎会。岐阜県をはじめ全道各地から応援に駆けつけた約700人の皆様方と盛大に式典・交流会が行われる。



●この日は、岐阜区開基100年の前夜祭。トラック御輿・子ども御輿・開会式の鏡開き・餅まき・100mののり巻きづくり・ゲーム・組合単位の屋台村・各班の芸能発表・懇親会・花火など、平成岐阜開拓団のゴールと一緒に数多くの催しでお祝いしました。